

2011 年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設され、今年で7年目を迎え、2012年3月末時点で200名以上の卒業生を社会に送り出すことができた。本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のホームページ (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2012a.html>) で公開している。私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、将来私たちが教育した学生を受け入れていただくことになる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。私たち教員は、この調査報告書の公開により、東北大学会計大学院への関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をいただければ幸いである。

2011年3月11日、我々は東日本大震災という未曾有の大災害を経験した。諸方面の関係者の方々の手助けにより、大学院運営への迅速な復帰が実現したことは、いまだに記憶に新しい。手助けいただいた方々に感謝するとともに、私たちは、学生は勉学に励み、教員たちは教育・研究に専心していきたい。

2012年7月9日

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、2012年1月12日より受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」(巻末資料 1)

②「会計大学院の授業に関するアンケート」(巻末資料 2)

両アンケートともに無記名であり、①は1学生につき1回限りの回答とした。②は履修者が5名以上である全ての講義について実施し(講義担当教員の希望があったものについては、履修者が5名未満の場合でも実施)、学生は受講している講義毎に回答を行っている。本報告書では、まず①のアンケートの集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析を行い、問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、②のアンケート結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。本報告書では、アンケートにより得られたデータを可能な限り数量的・客観的に分析したいと考えている。そこで、①における自由記入欄の内容については、次年度以降にカリキュラム編成を行う際の参考とし、重要と考えられる意見に対してのみ若干のコメントを行いたい。また、②における科目毎のアンケートの集計結果(アンケート質問項目17の自由質問を含む)と自由記入欄の記載内容は担当教員に直接報告されている。ワークショップ委員会では、これが次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2011年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修している「監査制度」（会計大学院生の履修者39名）において配布・回収され、この科目を履修していない学生については会計大学院事務分室で配布・回収を行った。回収数は38であり、会計大学院の在籍学生数の半分程度であるため、会計大学院全体の動向を反映したものとは言い切れないが、今後のカリキュラム編成の参考材料にはなり得るものと考えられる。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、開学当初からの推移を示す。2005年度と2006年度には、前期にもカリキュラムについてのアンケートを行っているが、紙面の大きさを考え、ここでは後期実施分のみ示すこととする。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1は受講者属性を問うものであり、本アンケート回答者の約90%が会計大学院学生であった。したがって、本アンケート結果は当会計大学院学生のカリキュラムに対する声を反映しているものと考えられる。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
適切である	11.11%	42.00%	32.79%	20.00%	26.19%	50.00%	39.47%
ほぼ適切である	11.11%	36.00%	34.43%	50.00%	45.24%	40.00%	31.58%
どちらともいえない	44.44%	16.00%	14.75%	16.67%	19.05%	5.00%	26.32%
やや不適切である	0.00%	2.00%	11.48%	13.33%	7.14%	5.00%	2.63%
不適切である	33.33%	4.00%	6.56%	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	61	30	42	20	38

設問3： Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
適切である	0.00%	28.00%	16.67%	10.00%	21.43%	31.58%	18.42%
ほぼ適切である	33.33%	20.00%	25.00%	30.00%	28.57%	26.32%	23.68%
どちらともいえない	11.11%	22.00%	26.67%	26.67%	28.57%	15.79%	18.42%
やや不適切である	33.33%	24.00%	18.33%	26.67%	19.05%	15.79%	28.95%
不適切である	22.22%	6.00%	13.33%	6.67%	2.38%	10.53%	10.53%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	60	30	42	19	38

設問4： オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
5回以上	33.33%	6.12%	9.84%	6.67%	0.00%	25.00%	10.53%
4回または3回	11.11%	14.29%	13.11%	16.67%	4.76%	10.00%	2.63%
2回	11.11%	16.33%	26.23%	13.33%	16.67%	0.00%	10.53%
1回	22.22%	14.29%	16.39%	10.00%	11.90%	10.00%	10.53%
利用しなかった	22.22%	48.98%	34.43%	53.33%	66.67%	55.00%	65.79%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	49	61	30	42	20	38

設問5： Semester開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
役に立った	11.11%	18.00%	38.33%	30.00%	23.81%	40.00%	23.68%
まあまあ役に立った	22.22%	32.00%	23.33%	26.67%	47.62%	5.00%	36.84%
どちらともいえない	11.11%	18.00%	15.00%	23.33%	26.19%	30.00%	23.68%
あまり役に立たなかった	22.22%	14.00%	10.00%	16.67%	2.38%	5.00%	7.89%
役に立たなかった	33.33%	18.00%	13.33%	3.00%	0.00%	20.00%	7.89%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	60	30	42	20	38

設問 6 : GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
適切である	0.00%	14.00%	18.03%	10.00%	7.14%	25.00%	10.53%
ほぼ適切である	33.33%	16.00%	24.59%	33.33%	30.95%	15.00%	23.68%
どちらともいえない	55.56%	38.00%	29.51%	36.67%	38.10%	55.00%	34.21%
やや不適切である	0.00%	16.00%	16.39%	13.33%	14.29%	5.00%	18.42%
不適切である	11.11%	16.00%	11.48%	6.67%	9.52%	0.00%	13.16%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	61	30	42	20	38

設問 7 : 受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか.

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
5 時間以上	11.11%	32.65%	35.00%	43.33%	34.15%	40.00%	43.24%
4-5 時間	0.00%	16.33%	20.00%	20.00%	21.95%	5.00%	10.81%
3-4 時間	0.00%	8.16%	16.67%	6.67%	9.76%	25.00%	8.11%
1-3 時間	44.44%	28.57%	15.00%	16.67%	12.20%	5.00%	24.32%
1 時間未満	44.44%	14.29%	13.33%	13.33%	21.95%	25.00%	13.51%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	49	60	30	41	20	37

注) 「1 時間未満」の項目は 2010 年度アンケートまでは「していない」であった.

設問 8 : e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか.

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
役に立った	55.56%	62.50%	56.67%	58.62%	57.14%	60.00%	71.05%
まあまあ役に立った	22.22%	33.33%	23.33%	41.38%	23.81%	35.00%	23.68%
どちらともいえない	11.11%	2.08%	15.00%	0.00%	16.67%	5.00%	5.26%
あまり役に立たなかった	11.11%	2.08%	1.67%	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	3.33%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	48	60	29	42	20	38

設問 9 : 在学中の受験を考えていますか.

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
考えている	55.56%	72.92%	67.24%	82.76%	71.43%	63.16%	59.46%
まだ決めていない	11.11%	4.17%	6.90%	6.90%	9.52%	10.53%	10.81%
考えていない	33.33%	22.92%	25.86%	10.34%	19.05%	26.32%	29.73%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	48	58	29	42	19	37

設問 10 : OB 会について (この設問は 2007 年度に追加したものである.)

選択項目	2007	2008	2009	2010	2011
賛成	51.72%	66.67%	57.14%	80.00%	78.38%
反対	6.90%	3.70%	2.38%	5.00%	2.70%
分からない	41.38%	29.63%	40.48%	15.00%	18.92%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	58	27	42	20	37

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の集計結果を基に、特徴が顕著なものについて問題点を明らかにし、今後の対応を示す。

設問2(基礎、展開、実践・応用の科目配置)については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答してもらった。「適切である」と「ほぼ適切である」の合計はこれまでと同様に70%を越えており、高い水準を保っていると言える。また、「やや不適切である」と「不適切である」の合計は3%を切っており、開学以来最低の水準となった。しかし、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が前年度よりも10%以上下がったという点で、考慮すべき問題があると考えた方が良いのかもしれない。特定の科目に原因があるかもしれないので、調査を行っていきたい。

設問3(セメスター間の開設授業科目のバランス)については、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が42.10%であった。一方、「やや不適切である」と「不適切である」の合計が4割弱であり、過去数年と比べても顕著に増加している。設問2と併せて、検討が必要であろう。今後、個人面談等を通じて、具体的にどのような点が不適切とされたか、その内容をさらに調査していきたいと考えている。

設問4(オフィスアワー)については、昨年度とかなり異なる結果になった。5回以上オフィスアワーを利用した学生が10%を越えているものの、3回以上と答えた学生は13.16%で、2009年度以前に近い分布となった。前回2010年度後期のアンケートは回答者がかなり少なかったことを考えると、過去数年間を通して、会計大学院全体のオフィスアワーの利用頻度が3回以上の学生は1割から2割の間で変動するものなのだと解釈した方が良さそうである。オフィスアワーのあり方については、今後も考えていきたい。

設問5(個人面談)については、昨年度までは、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が60.52%で、「余り役に立たなかった」と「役に立たなかった」の合計が15.78%と、好ましい傾向が続いている。前回2割であった「役に立たなかった」も、今回は7.89%となっており、個人面談は評価されていると考えてよいだろう。個人面談は前期及び後期のセメスターの最初に行っているが、学生の個人面談に関するニーズは、会計大学院を志望する動機とも関係があるように思われる。今後も学生のニーズを探っていきたい。

設問6(GPAによる評価)では、「やや不適切である」と「不適切である」の合計が3割を越え、過去の水準から大きく増加した。この点に関しては、GPAによる成績評価に問題があるかどうか、GPAの趣旨あるいはこの設問の趣旨を学生が理解しているかどうか、の両面を考える必要がある。前者については、「授業に関するアンケート」の設問11で同様の質問を行っているが、授業ごとの成績評価に大きな問題はないようである。本会計大学院では、GPAの自己管理目的での利用を特に勧めている。こうしたGPAの趣旨を学生には周知したいところではあるが、設問6については今後も経過を観察する必要があると思われる。

設問7(受験勉強にかける時間)では、前回に続いて「5時間以上」が43.24%という高水準になった。一方、「1時間未満」は前回の25%から13.51%へとかなり下がったため、全体のばらつきはやや小さくなったようである。こうしたばらつきはこの数年見られていたものであるが、この設問は、会計大学院には公認会計士試験合格以外に様々な目的を持った学生がいることと関係が深そうである。つまり、「していない」と答えた学生の多くは、公認会計士試験を受験予定ではないと考えられる。「していない」と答えた学生の割合が大きく減ったことについては、2011年度もやはり本会計大学院は公認会計士を目指す学生がほとんどなのだと理解するにとどめておく。

設問9(在学中の受験)では、「考えている」が4年連続して減少し約59%と低い値となり、「考えていない」が4年連続で増加して約29.73%と高くなった。「考えていない」と答えた学生が会計大学院修了後に受験をするつもりなのかそもそも受験をするつもりが無いのかはこの設問だけでは解らない。しかし、設問7で受験のために自主学習を「していない」と答えた学生は前回より大きく減っている。従って、公認会計士を目指して勉強はするが、在学中の合格はあまり強く目指さず、修了後に短答式試験の免除を利用しようと考えている学生が増えていると考えるのが自然であろう。

4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

2011年度後期における開講講義数は48科目であり、そのうち履修者が5名以上の講義(25科目)についてアンケートが実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
コストマネジメント	14	12
上級コストマネジメント	7	7
財務諸表	24	19
連結財務諸表	11	11
事例研究(財務諸表)	7	7
企業情報システム	6	5
原価計算2	37	24
簿記2	23	18
情報システム設計	34	34
監査計画の編成法1	14	12
内部統制の実務	16	13
財務諸表分析	31	28
上級財務諸表分析	8	4
財務行政	7	7
監査制度	39	29
上級監査制度	29	24
事例研究(経営管理)	7	7
事例研究(管理会計)	5	2
国際会計基準	31	28
事例研究(国際会計基準)	10	9
金融論	5	4
上級会社法	5	3
消費税法	9	9
ビジネス倫理	15	9
上級国際会計基準	15	11
合計	409	336

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、述べ履修者数409名に対して336名から回答を得た。アンケートの回答率は82.15%であり、前回(2011年度前期, 64.62%)と同様に7割を越える回収率であった。

なお、質問項目17は科目担当教員が独自に設定できる質問であり、アンケートの集計には含めていない。

4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。併せて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	76	244	6	7	34	94	189	227	216	187	194	145	198	149	183	29
4	236	49	5	6	21	154	96	70	79	93	77	85	90	89	94	51
3	16	27	18	23	34	73	40	24	28	40	53	75	28	59	44	66
2	4	9	40	44	76	11	9	6	8	11	5	20	9	19	6	105
1	2	3	112	149	96	2	1	6	2	2	3	8	8	16	3	11
0	1	0	152	105	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57
合計	335	332	333	334	333	334	335	333	333	333	332	333	333	332	330	319
平均値	4.13	4.53	0.89	1.09	1.83	3.97	4.38	4.52	4.50	4.36	4.37	4.02	4.38	4.01	4.32	2.41
中央値	4.00	5.00	1.00	1.00	1.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	4.00	5.00	2.00
最頻値	4	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
標準偏差	0.64	0.93	1.10	1.10	1.57	0.85	0.82	0.85	0.80	0.86	0.87	1.06	0.92	1.14	0.94	1.50

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）～設問5（宿題）と設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も4か5である。この傾向から、会計大学院の講義に対する評価は良好であると言ってよいだろう。

昨年度と同様に、設問3～5からは会計大学院の授業に関連する勉強時間が少ないことが分かる。この傾向もまたこれまでと同じであり、好ましくない状態である。予習・復習については、どの学生もできるだけ短めに抑えようとした結果であろうと思われるが、宿題にかかった時間を見ると、標準偏差は大きく、均等にばらついているように思われる。宿題は当然やらなければならないが、それにかかる時間は学生によってかなりばらついているということが見てとれる。授業によって課される宿題の量は異なるだろうが、宿題をどの程度熱心にやっているかも学生によって異なると考えられる。宿題にかかる時間の均等な分布からは、会計大学院の授業で課される宿題の量および質は、学生にとって適度に厳しいのではないかと予想される。

4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、次のような表を作成した。設問 16 の資格は複数回答が可能となっているが、相関係数の計算上、複数回答者については複数の数値を合計した値を用いている。例えば、2 と 3 の資格を持つ回答者は資格の値を 5 として相関係数を計算している。なお、表 2 の計算の際には、資格についてこのような合計はしていない。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1.000															
2 出席	-0.138	1.000														
3 予習	0.007	-0.118	1.000													
4 復習	0.112	-0.126	0.605	1.000												
5 宿題	-0.009	0.014	0.458	0.427	1.000											
6 理解	-0.064	0.113	0.183	0.172	0.205	1.000										
7 難易度	0.023	0.071	0.174	0.170	0.253	0.542	1.000									
8 教員準備	-0.010	-0.017	0.115	0.093	0.176	0.268	0.524	1.000								
9 プレゼン	-0.006	0.025	0.110	0.122	0.142	0.297	0.510	0.791	1.000							
10 教材	0.016	0.062	0.139	0.143	0.115	0.346	0.553	0.561	0.682	1.000						
11 評価方法	0.030	0.060	0.149	0.068	0.113	0.311	0.549	0.512	0.525	0.637	1.000					
12 シラバス	0.010	-0.062	0.136	0.118	0.014	0.319	0.424	0.456	0.435	0.459	0.511	1.000				
13 教員評価	-0.006	0.093	0.160	0.148	0.179	0.312	0.541	0.799	0.792	0.628	0.535	0.491	1.000			
14 対試験	-0.010	0.125	0.185	0.336	0.226	0.313	0.482	0.266	0.306	0.359	0.294	0.226	0.285	1.000		
15 キャリア	-0.002	0.153	0.196	0.149	0.157	0.282	0.438	0.484	0.512	0.489	0.421	0.301	0.573	0.344	1.000	
16 資格	-0.129	0.061	-0.099	-0.137	0.016	-0.074	-0.084	-0.004	-0.069	-0.164	-0.149	-0.095	-0.052	-0.042	-0.058	1.000

表 3：質問項目数の相関関係

設問 3(予習)～設問 5(宿題)の間で比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行うことを示している。この傾向は過去のアンケートと同じである。

昨年度と同様に、設問 6(理解)～設問 15(キャリア)の間で全般的に高い正の相関が見られる。これらの設問は会計大学院の講義に対する評価に関するものと考えられる。特に、設問 8(教員準備)と他の設問項目の間の相関がかなり高い値を示している。このことは、講義の評価は教員の準備の度合いにかなり影響されることを示していると考えてよいだろう。設問 8(教員準備)と設問 13(教員評価)の間の相関が 0.792 と極めて高いことから、このことがうかがえる。

この点もまた過去と同様だが、設問 3～設問 5の設問群と設問 6から設問 15の設問群の間では相関が低かった。この理由については、様々な要因が絡んでいるためはっきりとしたことは言えないが、会計大学院の授業関連の勉強時間と、授業そのものに対する評価の間にはあまり強い関係が見られないということである。しかし、強いて言及するならば、設問 3(予習)、4(復習)と、設問 14(対試験)の間の相関が比較的大きめである。このことは、公認会計士試験の内容に直結する授業では、勉強時間は長めに取っている学生が多いであろうという直観と整合的である。

以上、設問間の相関からは過去と同様の結果が得られた。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院のホームページを参照されたい(<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2012a.html>)。

4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、過去4年間の推移を示す。なお、2011年度後期のアンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
公認会計士コース（2年）	89.78%	20.95%	33.85%	18.53%	44.44%	39.47%	35.57%	22.69%
公認会計士コース（1年）		74.66%	57.80%	75.88%	41.30%	47.04%	54.62%	70.45%
高度会計職業人コースまたは会計リサーチコース	0.54%	0.00%	0.44%	0.59%	0.97%	4.28%	4.20%	4.78%
経済経営学専攻	3.49%	3.04%	3.52%	2.65%	4.35%	3.62%	1.12%	1.19%
経済学部	6.18%	1.35%	4.40%	2.35%	8.70%	4.61%	2.80%	0.60%
その他	-	-	-	-	0.24%	0.99%	1.68%	0.30%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	372	296	455	340	414	304	357	335

設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
90%以上	85.29%	71.09%	79.39%	80.42%	85.92%	80.13%	85.07%	73.49%
89-70%	8.29%	17.69%	12.50%	12.17%	10.44%	13.58%	10.14%	14.76%
69-50%	2.67%	5.78%	3.95%	2.97%	1.21%	1.66%	1.41%	8.13%
49-20%	1.87%	3.40%	1.32%	2.97%	0.97%	2.98%	2.25%	2.71%
20%未満	1.34%	1.35%	2.63%	1.48%	1.46%	1.66%	1.41%	0.90%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	374	294	456	337	412	302	355	332

設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
5時間以上	4.05%	3.69%	3.30%	2.92%	6.02%	2.65%	2.51%	1.80%
4-5時間	2.43%	2.35%	1.54%	2.05%	3.86%	0.66%	2.51%	1.50%
3-4時間	6.76%	8.72%	4.40%	4.68%	5.54%	7.95%	8.66%	5.41%
2-3時間	17.30%	14.43%	12.75%	14.91%	12.53%	14.57%	9.78%	12.01%
1-2時間	34.86%	33.22%	47.91%	41.81%	41.69%	40.40%	31.84%	33.63%
1時間未満	34.59%	37.58%	30.11%	33.63%	30.36%	33.77%	44.69%	45.65%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	370	298	455	342	415	342	358	333

設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
5時間以上	4.29%	4.68%	4.16%	4.40%	7.00%	3.67%	2.53%	2.10%
4-5時間	2.95%	5.35%	1.75%	4.32%	3.38%	2.33%	4.49%	1.80%
3-4時間	12.33%	11.04%	8.97%	9.71%	6.04%	8.00%	10.96%	6.89%
2-3時間	18.23%	15.38%	22.10%	27.34%	25.85%	17.33%	14.04%	13.17%
1-2時間	41.02%	44.15%	50.98%	53.24%	41.55%	49.33%	40.45%	44.61%
1時間未満	21.18%	19.40%	12.04%	22.66%	16.18%	19.33%	27.53%	31.44%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	373	299	457	341	414	300	356	334

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
5時間以上	8.74%	11.15%	7.08%	19.17%	12.62%	11.41%	7.32%	10.18%
4-5時間	5.74%	5.41%	3.98%	5.60%	6.80%	3.69%	8.45%	6.29%
3-4時間	12.02%	14.19%	13.94%	9.44%	8.74%	18.79%	17.46%	10.18%
2-3時間	21.58%	20.61%	24.56%	21.24%	23.79%	18.12%	17.46%	22.75%
1-2時間	33.61%	29.39%	37.39%	26.55%	33.74%	33.22%	28.73%	28.74%
1時間未満	18.31%	19.26%	13.05%	17.99%	14.32%	14.77%	20.56%	21.56%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	366	296	452	339	412	298	355	333

設問 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
理解できた	24.18%	22.48%	30.35%	24.12%	26.75%	26.32%	29.89%	28.14%
ほぼ理解できた	51.36%	47.65%	47.38%	50.88%	47.23%	44.41%	46.50%	46.11%
どちらともいえない	18.21%	22.82%	18.12%	21.76%	21.45%	24.67%	19.89%	21.86%
あまり理解できなかった	4.08%	5.70%	3.71%	3.24%	4.10%	3.62%	4.20%	3.29%
理解できなかった	2.17%	1.34%	0.22%	0.00%	0.48%	0.99%	1.12%	0.60%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	368	298	458	339	415	304	357	334

設問 7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
適切	56.84%	45.00%	59.39%	54.25%	59.18%	58.22%	56.15%	56.42%
ほぼ適切	29.22%	36.33%	28.17%	31.38%	26.57%	28.29%	29.89%	28.66%
どちらともいえない	11.26%	16.00%	9.83%	10.85%	10.63%	11.18%	10.89%	11.94%
やや不適切	1.61%	2.00%	2.40%	2.35%	2.90%	1.64%	2.51%	2.69%
不適切	1.07%	0.67%	0.22%	1.17%	0.72%	0.66%	0.56%	0.30%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	373	300	458	341	414	304	358	335

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
十分	65.59%	55.67%	72.11%	66.47%	71.29%	69.87%	65.08%	68.17%
ほぼ十分	20.43%	29.33%	19.39%	22.06%	19.71%	21.85%	23.46%	21.02%
どちらともいえない	7.80%	10.67%	5.45%	6.18%	6.08%	6.95%	6.70%	7.21%
やや不十分	2.42%	3.00%	2.61%	2.94%	2.19%	0.99%	3.07%	1.80%
不十分	3.76%	1.33%	0.44%	2.35%	0.73%	0.33%	1.68%	1.80%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	372	300	459	340	411	302	358	333

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
良かった	61.29%	49.83%	66.45%	63.93%	69.34%	67.99%	62.57%	64.86%
まあまあ良かった	22.58%	29.10%	22.88%	22.87%	18.73%	21.78%	24.86%	23.72%
どちらともいえない	9.14%	16.05%	7.63%	7.92%	8.03%	8.25%	8.66%	8.41%
やや悪かった	4.57%	4.68%	1.74%	4.11%	2.68%	1.65%	3.07%	2.40%
悪かった	2.42%	0.33%	1.31%	1.17%	1.22%	0.33%	0.84%	0.60%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	372	299	459	341	411	303	358	333

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
適切	54.84%	46.31%	62.14%	59.53%	63.75%	59.74%	60.06%	56.16%
ほぼ適切	25.54%	32.89%	23.41%	24.34%	22.87%	25.41%	27.09%	27.93%
どちらともいえない	12.10%	15.77%	9.63%	12.32%	9.25%	10.23%	8.38%	12.01%
やや不適切	5.65%	4.03%	3.72%	3.52%	2.43%	3.63%	3.63%	3.30%
不適切	1.88%	1.01%	1.09%	0.29%	1.70%	0.99%	0.84%	0.60%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	372	298	457	340	411	303	358	333

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
適切	58.76%	46.64%	60.48%	57.18%	61.31%	63.12%	59.10%	58.43%
ほぼ適切	26.42%	32.21%	23.14%	30.50%	26.52%	25.25%	25.49%	23.19%
どちらともいえない	11.59%	18.46%	13.10%	8.80%	9.00%	10.30%	11.76%	15.96%
やや不適切	2.16%	1.68%	2.84%	2.64%	1.46%	1.33%	1.96%	1.51%
不適切	1.08%	1.01%	0.44%	0.88%	1.70%	0.00%	1.68%	0.90%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	371	298	457	341	411	301	357	332

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
役に立った	37.74%	36.91%	48.47%	46.63%	50.36%	43.38%	49.16%	43.54%
まあまあ役に立った	31.54%	31.88%	27.73%	26.10%	26.28%	31.46%	26.12%	25.53%
どちらともいえない	24.26%	23.49%	19.65%	21.70%	17.76%	21.85%	19.38%	22.52%
あまり役に立たなかった	2.43%	5.03%	3.28%	2.93%	3.41%	1.99%	3.65%	6.01%
役に立たなかった	4.04%	2.68%	0.87%	2.64%	2.19%	1.32%	1.69%	2.40%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	371	298	458	341	411	302	356	333

設問 13：総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
評価できる	65.05%	49.16%	68.49%	66.57%	64.63%	66.89%	61.52%	59.46%
まあまあ評価できる	22.31%	34.68%	20.79%	22.87%	25.37%	24.50%	28.37%	27.03%
どちらともいえない	6.45%	13.13%	8.32%	6.74%	7.56%	6.62%	6.18%	8.41%
あまり評価できない	4.30%	2.02%	2.19%	1.76%	1.71%	1.66%	3.37%	2.70%
評価できない	1.88%	1.01%	0.22%	2.05%	0.73%	0.33%	0.56%	2.40%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	372	297	457	341	410	302	356	333

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
役立つ	45.53%	45.61%	59.92%	33.53%	46.32%	40.00%	44.82%	44.88%
まあまあ役に立つ	27.91%	28.72%	25.38%	37.94%	28.68%	29.00%	24.93%	26.81%
どちらともいえない	19.51%	16.22%	11.60%	20.59%	17.16%	20.33%	20.73%	17.77%
あまり役に立たない	4.61%	5.07%	1.97%	6.18%	5.39%	6.67%	4.20%	5.72%
役に立たない	2.44%	4.39%	1.53%	1.76%	2.45%	4.00%	5.32%	4.82%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	369	296	457	340	408	300	357	332

設問 15：この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。

選択項目	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期
役立つ	45.26%	50.00%	53.95%	53.24%	50.12%	56.57%	50.00%	55.45%
まあまあ役に立つ	27.64%	27.36%	29.39%	32.06%	28.99%	25.59%	29.94%	28.48%
どちらともいえない	21.41%	17.23%	14.69%	11.47%	16.22%	14.48%	15.82%	13.33%
あまり役に立たない	3.25%	3.38%	1.54%	2.35%	3.93%	2.36%	2.54%	1.82%
役に立たない	2.44%	2.03%	0.44%	0.88%	0.74%	1.01%	1.69%	0.91%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	369	296	456	340	407	297	354	330

注) この設問は2010年度までは「この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか」であった。

4.5. 自己評価と今後の課題

ここでは、本節で扱っている「授業アンケート」の結果について設問群ごとに評価を行い、今後の課題を検討する。

・学生の学習（設問 2 から 5）について

まず、設問 3 についてだが、予習にかかる時間は 2 時間以内と答えた学生が 79.28% と、ほぼ 8 割に達している。また、設問 4 でも、復習に 2 時間以上かけない学生が 75% を越えている。これらの傾向はこれまでのアンケートと同様だが、2 時間以内で予習・復習をそれぞれすませている学生の割合は、開学以来最も高い水準に達している。基本的に毎年同じ教員が同じ授業を担当するため、各教員及び授業についてある程度の情報の蓄積が学生間でなされているのであろうが、今回この傾向が強くなったことは、見逃してはならないことかもしれない。ここ数年の公認会計士試験の難化を受けて、会計士試験対策の勉強にできるだけ多くの時間を割こうという学生が増えていることもこの一因かも知れない。設問 2 と設問 5 に関しては、注目すべき変化は見あたらない。これまでと同様、宿題にかかる時間には大きなばらつきが見られる。

・教員への評価（設問 6 から 13）について

これらの設問に関しては、過去のアンケート結果とほぼ同じ結果が得られた。強いて言えば、設問 10 と設問 13、つまりテキスト・参考書やプリント等の適切さと、教員のパフォーマンスについての評価がわずかに下がっているように思われる。今後も講義の充実に励んでいきたい。

・講義の内容（設問 14, 15）について

設問 14, 15 の双方で、これまでと同様に好ましい結果が得られた。ただし、この「授業アンケート」は、ひとつひとつの授業についてのアンケートである。本会計大学院のカリキュラム全体が、将来のキャリアに役立つのかは、別途調査が必要であろう。この「授業アンケート」は、原則として受講者が 5 名以上の講義で実施しているため、受講者が少ない科目については行っていない。つまり、設問 14, 15 の結果を逆に読むと、学生たちは試験の役に立つ、あるいは将来働きだしてから役に立ちそうな授業を中心に受講し、そうでない科目については受講者が少ないので本アンケートの結果には表れていないだけなのかも知れない。

設問 15 は、2010 年度までは「この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか」であった。最近の会計大学院学生の多様化に伴い、この設問は「この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか」へと変更された。様々なニーズを持つ学生たちが、それぞれどういった要望を本会計大学院の授業に対して持っているかは、個人面談等の機会を通して情報収集していきたい。今後とも授業内容の充実を図っていきたい。

5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄について、授業に関するものは科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

まず、「授業に関するアンケート」で全体的に観察された傾向をいくつか挙げておく。

- i) バランスのよい小テストの実施は理解の助けになる。
- ii) 適切なテーマを選択したディスカッションは、思考訓練や学生間の意見交換として役立つ。
- iii) 学生によるプレゼンテーションは、授業内容によって向き不向きがある。

各教員には、こうした意見を講義の改善に役立ててもらえればと思う。

次に、「カリキュラム等に関するアンケート」について述べる。まず、昨年度と同様に新たに日本語でのプレゼンテーションについての授業についての要望も見られたが、英文会計についての講義を要望する声が多くあった。他には、経営系の講義やファイナンス系の講義をもう少し増やして欲しいという声が見られた。最後に、小数ではあるが重要だと思われるものとして、「片平キャンパスは機能が不足していて不便」という声があった。これはおそらく、2011年5月に本会計大学院が川内キャンパスから片平キャンパスへ移転してしまい、川内キャンパスにある経済学研究科図書室が遠くなったことが主な理由だと思われる。会計関連の図書や資料の充実については、片平キャンパスは整備途中である。さらなる充実をしていきたい。

資料1：2011年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2011年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (4) 公認会計士コース（1年） (3) 高度会計職業人コースまたは会計リサーチコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
4	オフィスマターを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (4) 4回または3回 (3) 2回 (2) 1回 (1) 利用しなかった
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった
6	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 1-3時間 (1) 1時間未満
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体としてe-mail、HPを用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院OB会を組織したいと考えています。OB会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない 《特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。》
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料2：2011年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2011年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (4) 公認会計士コース（1年） (3) 高度会計職業人コースまたは会計リサーチコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記1級 (2) 日商簿記2級 (1) その他 (0) 何も無い	複数回答可能です。複数回答をするときはマークシートの16～20の欄に1つずつマークして下さい。(1)については自由記入欄に具体的に記入して下さい。
21	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
22	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2011年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	7	18.42%
	公認会計士コース(1年)	28	73.68%
	高度会計職業人コースまたは 会計リサーチコース	3	7.89%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	38	100.00%
設問2 基礎, 展開, 実践・応用科 目の配置は適切だと思いま すか.	適切である	15	39.47%
	ほぼ適切である	12	31.58%
	どちらともいえない	10	26.32%
	やや不適切である	1	2.63%
	不適切である	0	0.00%
	合計	38	100.00%
設問3 Semester間の開設授業科 目のバランスは適切だと思 いますか.	適切である	7	18.42%
	ほぼ適切である	9	23.68%
	どちらともいえない	7	18.42%
	やや不適切である	11	28.95%
	不適切である	4	10.53%
	合計	38	100.00%
設問4 オフィスアワーを利用して 教員に履修相談・質問等を行 った回数.	5回以上	4	10.53%
	4回または3回	1	2.63%
	2回	4	10.53%
	1回	4	10.53%
	利用しなかった	25	65.79%
	合計	38	100.00%
設問5 Semester開始時の個人面 談は, 学習計画を立てる上 で役に立ちましたか.	役に立った	9	23.68%
	まあまあ役に立った	14	36.84%
	どちらともいえない	9	23.68%
	あまり役に立たなかった	3	7.89%
	役に立たなかった	3	7.89%
	合計	38	100.00%
設問6 GPAによって学生の能力を 適切に評価できると思いま すか.	適切である	4	10.53%
	ほぼ適切である	9	23.68%
	どちらともいえない	13	34.21%
	やや不適切である	7	18.42%
	不適切である	5	13.16%
	合計	38	100.00%
設問7 受験のための自主学習には 1日平均何時間くらいかけ ていますか.	5時間以上	16	43.24%
	4-5時間	4	10.81%
	3-4時間	3	8.11%
	1-3時間	9	24.32%
	1時間未満	5	13.51%
	合計	37	100.00%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡 システムは役に立ちました か.	役に立った	27	71.05%
	まあまあ役に立った	9	23.68%
	どちらともいえない	2	5.26%
	あまり役に立たなかった	0	0.00%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	38	100.00%
設問9 在学中の受験を考えていま すか.	考えている	22	59.46%
	まだ決めていない	4	10.81%
	考えていない	11	29.73%
	合計	37	100.00%
設問10 OB会について	賛成	29	78.38%
	反対	1	2.70%
	分からない	7	18.92%
	合計	37	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります.

資料4：2011年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	76	22.69%
	公認会計士コース(1年)	236	70.45%
	高度会計職業人コースまたは公認会計士コース	16	4.78%
	経済経営学専攻	4	1.19%
	経済学部	2	0.60%
	その他	1	0.30%
	合計	335	100.00%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	244	73.49%
	89-70%	49	14.76%
	69-50%	27	8.13%
	49-20%	9	2.71%
	20%未満	3	0.90%
	合計	332	100.00%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	6	1.80%
	4-5時間	5	1.50%
	3-4時間	18	5.41%
	2-3時間	40	12.01%
	1-2時間	112	33.63%
	1時間未満	152	45.65%
	合計	333	100.00%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	7	2.10%
	4-5時間	6	1.80%
	3-4時間	23	6.89%
	2-3時間	44	13.17%
	1-2時間	149	44.61%
	1時間未満	105	31.44%
	合計	334	100.00%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	34	10.18%
	4-5時間	21	6.29%
	3-4時間	34	10.18%
	2-3時間	76	22.75%
	1-2時間	96	28.74%
	1時間未満	72	21.56%
	合計	333	100.00%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	94	28.14%
	ほぼ理解できた	154	46.11%
	どちらともいえない	73	21.86%
	あまり理解できなかった	11	3.29%
	理解できなかった	2	0.60%
	合計	334	100.00%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	189	56.42%
	ほぼ適切	96	28.66%
	どちらともいえない	40	11.94%
	やや不適切	9	2.69%
	不適切	1	0.30%
	合計	335	100.00%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	227	68.17%
	ほぼ十分	70	21.02%
	どちらともいえない	24	7.21%
	やや不十分	6	1.80%
	不十分	6	1.80%
	合計	333	100.00%

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	216	64.86%
	ほぼ十分	79	23.72%
	どちらともいえない	28	8.41%
	やや不十分	8	2.40%
	不十分	2	0.60%
	合計	333	100.00%
設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	187	56.16%
	ほぼ適切	93	27.93%
	どちらともいえない	40	12.01%
	やや不適切	11	3.30%
	不適切	2	0.60%
	合計	333	100.00%
設問11 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか。	適切	194	58.43%
	ほぼ適切	77	23.19%
	どちらともいえない	53	15.96%
	やや不適切	5	1.51%
	不適切	3	0.90%
	合計	332	100.00%
設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	145	43.54%
	まあまあ役に立った	85	25.53%
	どちらともいえない	75	22.52%
	あまり役に立たなかった	20	6.01%
	役に立たなかった	8	2.40%
	合計	333	100.00%
設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	198	59.46%
	まあまあ評価できる	90	27.03%
	どちらともいえない	28	8.41%
	あまり評価できない	9	2.70%
	評価できない	8	2.40%
	合計	333	100.00%
設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	149	44.88%
	まあまあ役に立つ	89	26.81%
	どちらともいえない	59	17.77%
	あまり役に立たない	19	5.72%
	役に立たない	16	4.82%
	合計	332	100.00%
設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	183	55.45%
	まあまあ役に立つ	94	28.48%
	どちらともいえない	44	13.33%
	あまり役に立たない	6	1.82%
	役に立たない	3	0.91%
	合計	330	100.00%
設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	税理士会計科目	29	9.09%
	公認会計士短答式	51	15.99%
	日商簿記1級	66	20.69%
	日商簿記2級	105	32.92%
	その他	11	3.45%
	何も無い	57	17.87%
	合計	319	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2011 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	松田 康弘
委員	青木 雅明
委員	木村 史彦
委員	千木良弘朗

会計大学院アンケート実施報告書 2011 年度後期

2012 年 7 月 9 日発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会